も っ と 基 礎 研 究 を

岩 柳 茂 夫*

近年諸方の大学に高分子学科ができて、高分子の基礎的研究の場が拡大されたことはまことによるこばしい。さらに高分子研究所の設立の計画もあるとうかがっているが、その実現の可能性はどうであろうか？ 以下に高分子の基礎研究に関して二三身近かなことを述べさせていただきたい。

文部省の科学研究費による総合研究班が高分子の物性物理の分野で、^{*}坂井卓三教授を代表者として組織されたのは 1950 年のことである（「高分子」戦後 20 年間の回顧と将来の展望号）。その後、岡先生や数日前惜くも故人となられた古市北大学長などの代表者としてのお骨折りもあって、この研究班は名称も代表者も 3 年ごとに替わりはしたが、実質は連綿と続き、昨年私が代表者をおおせつかった次第である。現在形式的には 30 名の分担研究者でこの研究班が組織されているが、実質的には研究協力者として参加しておいでの方も当然数えるべきであり、そうすると総数約 100 名の研究者になる。私などの少数の例外を除いてほとんど全部が大学に所属しておられる。

このグループでは研究の成果の要約を毎年 *Reports on Progress in Polymer Physics in Japan* として刊行している。今年も化学分野の高分子溶液の総合研究班と共同で Vol. 10 を出版の予定である。近年はどちらの研究班にも所属されない多数の方からもご投稿いただくため、昨年の Vol. 9 には 158 論文を含み、日本の高分子の基礎研究のかなりの部分を集録するに至っている。すべての部分を包含するように努力しないのは、主として経済的な理由からである。無理に完べきを期するより、永続をはかった方が良さそうに思える。海外にも 200 部以上を寄贈または販売して、日本の高分子研究を世界に知らせる役目の一端をになっている。

ところで、この研究班に文部省が支出してくれる総合研究費が昨年度 132 万円であった。毎年いくらかずつ増額にはなるが、研究人口の増加や物価上昇にはとても追いつけない。それでも研究者相互の連絡、情報交換、討論などの機会を増すのには大いに役立っている。上記“*Reports*”の刊行などもこれのおかげのできるのである。しかしながら上記金額を人数で割っていただければ直ぐにわかっていただけるとおり、この研究費でまとまった装置をつくり、新しい仕事を始めることは、本来の趣旨なのではあろうが、とてもできない相談である。そのような経費の出所は別（講座費とか機関研究費とか）にあるというのであろうが、それとて十分ではない。それで当然総合研究費を増額せよとの要求が起こるはずであるが、実際にその声を耳にすることは比較的少ない。実現の見込みがないことが知れわたってしまっているのだろうか？

限られた研究費を多少とも有効にするには、その使途に対して加えられている多くの規制を、本来の意図とは反対に、ゆるめるなど管理方式に適切な配慮をいただくことだと思う。多くの基礎研究は日常の事務や建設、さらにはプロジェクト研究などとも、仕事の進め方が全く異なっていることを理解していただきたいと思う。大規模、計画的にはやりにくく、とかく個人プレーになりがちなものである。

基礎科学の研究経費を国家が支出することはもはや世界の通念になったかに思える。しかし高分子に関する基礎研究などの場合には経費をもっと産業界にお願いできないものか？ と思う。すでにこれを実行しておいでの会社もあるとうかがっているし、必ずしも虫のよい考えだと一笑に付されるとも限るまい。基礎科学こそすべての国に公平に与えられた天然資源である。

* Shigeo IWAYANAGI 理化学研究所主任研究員・理博

話は変わるが、ポリエチレンの分別試料をこの研究班でつくりたくないかという要望がある。これができれば高分子結晶に関するわれわれの知識は格段に精確になることが期待できる。その意義は無定形高分子(NBS ポリイソブチレン (アメリカの National Bureau of Standards が 1949 年世界に配布した未分別試料。多くの粘弾性測定が行なわれた。)) の場合よりはるかに大きいであろう。しかし適切な技術的、経済的援助が与えられて、さらにこのことに献身的に従事する研究者がいて初めてできることであろう。あるいは高分子研究所のような大組織にまたなければならぬ仕事かもしれない。ご経験なりご要望なりお聞かせ願えれば幸である。

(6706)

バックナンバー在庫紹介

下表に在庫分の巻、号、頒価を掲げます。購入希望の方は下記までお申し込み下さい。なお、各巻の 12 月号にその年発行された分の総目次が掲載してあります。

東京都中央区銀座東 5-2-4 本州ビル 4 階
電話 東京 (03) (543) 3771 (代表)
高分子学会会員課バックナンバー係

高 分 子

巻	通巻 (号)	金額(円) (ただし送料は実 費いただきます)
1	(1)~(7)	(120)
2	(1)~(8), (10)~(12)	(100)
3	(1)~(12)	
4	(3), 37~40 41~45	
5	47, 49~51, 55	
6	63~66, 68, 69	(100号) (106号) (300)
7	70, 72, 75~81	
8	82, 84, 85, 87, 89, 90, 92, 93	
9	96, 97, 100~102, 104, 105	
10	106, 108, 110~117	以下(220) 但し 127号 (650) 128号 (1200) 142号 (300) 163号 (850) 172号以下 (300) 但し 178号 (850)
11	120~123, 126~129	
12	130~141	
13	142~153	
14	154~165	但し 178号 (850)
15	167, 168, 171 172~176, 178~183	

高分子文献集

年	号	金額 (円)
1954	2 ~ 6	150
1955	7 ~ 1	150
1956	14~21	150
1957	22, 24	150

高分子化学

巻	号	金額 (円)
9	86, 87, 89~91	(200)
10	88, 92	以下15巻まで(100) 但し 133号 (200) 161号 (130) 163号 (250) 164号 (350)
11	93~104	
12	105~107, 109~116	
13	117~119	
14	122~128	以下(130), (250) 下記の号は (250) 165号, 192号 210号, 213号 219号, 222号, 231号, 234号 240号, 243号, 246~249号 252号, 253号 255号以下 (180), (350) 下記の号は (350) 255号, 258号, 259号, 261号, 262号
15	129~136, 138	
16	158~164	
17	165~167	
18	187, 188	255号以下 (180), (350) 下記の号は (350) 255号, 258号, 259号, 261号, 262号
19	191, 194, 195, 198, 200	
20	209~211	
21	213, 214, 219~222	
22	224	255号以下 (180), (350) 下記の号は (350) 255号, 258号, 259号, 261号, 262号
23	231~236, 229	
24	237~247	
25	249, 250, 252~254 255~259, 261, 262	

海外高分子研究

巻(年)	号 (通巻番号)	金額 (円)
1	1, 6	150
2	2~6	150
3	1~6	150
4	1~6	150
5	2, 4~6	150
6	2, 4, 9	150
7	1, 4, 1	150
(1961)	(54)	200
(1962)	(55)~(65)	200
(1963)	(68)~78(78)	200
(1964)	(79), (81)~(86)	200
(1965)	(87)~(102)	200
(1966)	(103)~(117)	200